

1 市内主要駅で一斉に帰宅困難者対策訓練を実施

同一の訓練想定のもと、市本部と7区本部、各駅、各警察署等との間で情報受伝達を行います。
また、情報受伝達訓練と連係して川崎駅等の主要駅周辺で実動訓練を実施します。

★昨年度の各駅における訓練の様子



(武蔵溝ノ口駅)



(登戸駅)



(新百合ヶ丘駅)

2 訓練内容（規模、行動計画等）は昨年度に準じて実施

混乱状況を演出できる一定規模の帰宅困難者役を確保（概ね100人～200人程度）し、繰り返し訓練を重ねることにより、対応能力の維持・向上を図っていきます。

3 具体的な訓練内容のポイント

（1）よりリアルな訓練状況の付与

- 発災時に想定される状況を踏まえ、よりリアルなシナリオを作成します。
- 要援護者役を演じる際に小道具（アイマスク、耳栓等）を使用します。
可能であれば、実際に障害をお持ちの方に訓練に参加いただきます。
- 帰宅困難役に具体的な役割を付与し、混乱状況を演出します。



（2）各種情報伝達手段の活用

- アゼリアビジョン、河川情報表示板（東西自由通路）
- デジタルサイネージ（川崎アゼリア内）
- ホワイトボード、貼り紙、掲示板等（各駅、各開設施設）
- かわさき Wi-Fi 利用

（利用可能施設（ミューザ川崎、産業振興会館、教育文化会館、幸市民館））

※駅や一時滞在施設において、リアルタイムの情報提供を行うほか、市HPやツイッター等で情報発信を行います。

（3）一時滞在施設における受入手順の確認

- チェックリストを用いた施設の安全点検及び利用者名簿への記載
- 玄関入口等へ掲示（施設の利用にあたっての注意）、
- 要援護者への配慮（障害者や乳幼児を連れた女性等）
- 特設公衆電話の開設方法の確認